

問1 Aの著者が説いたことを述べたa～cの文の正誤の組合せとして正しいものを選びなさい。

No. 1

- a 哲学する者が政治権力の座につくか、あるいは権力を有する人々が哲学するのでなければならぬ。
- b 事物に内在する本質を形相と呼び、素材となる質料に形相が形を与えることによって、個々の事物が形成される。
- c 理性と信仰は調和するかしないかをめぐって、理性に基づく真理の探究は、神が創造した自然の秩序の探究にほかならない。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	正

問2 下線部に関して述べた次の文の（ a ）～（ c ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものを選びなさい。

No. 2

Bの考えを説いた（ a ）は、幸福の実現のためには、「情念に支配されない状態」である（ b ）を目指す必要があるとした。彼の、欲望や感情に惑わされず、理性による幸福を追求するこのような考え方は、（ c ）と呼ばれる。

	a	b	c
ア	エピクロス	アパティア	快楽主義
イ	エピクロス	アタラクシア	禁欲主義
ウ	ゼノン	アパティア	快楽主義
エ	ゼノン	アパティア	禁欲主義
オ	ゼノン	アタラクシア	快楽主義

問3 Cの著者が説いたことを述べたa～cの文とそれをあらわす語句の組合せとして正しいものを選びなさい。

No. 3

- a 煩悩の炎の消えた静かな安らぎの境地を理想とする。
- b 人間を含めてあらゆる現象は変化してやまない。
- c いかなる存在もそれ自体として独立に存在するような実体ではない。

	a	b	c
ア	涅槃寂静	諸行無常	無自性
イ	涅槃寂静	求不得苦	諸法無我
ウ	涅槃寂静	諸行無常	諸法無我
エ	梵我一如	求不得苦	無自性
オ	梵我一如	諸行無常	諸法無我

問4 Dの著者が説いたX群の語句について説明した文をY群からそれぞれ選んだとき、組合せとして正しいものを選びなさい。

No. 4

【X群】
a 羞惡の心 b 惻隱の心 c 辭讓の心

【Y群】
Ⅰ 自分や他人の不善を憎むこと。
Ⅱ 他人の不幸を見過ごすことのできないこと。
Ⅲ 他人を尊敬する心のこと。

	a	b	c
ア	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
イ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ
ウ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ
エ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ
オ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ

- 問2 Bの著者が説いたこととして、最も適当なものを選びなさい。 No.8
- ア 人間の言動や思考は、無意識的・集団的に形成されていくパターンによって方向付けられている。
- イ 自分の生き方を自分で選ぶということは、自分の存在に対してのみならず、全人類に対しても責任を負うことである。
- ウ 人間は、人間の生命と同じように動物や植物の生命を神聖視するときのみ、また、苦境にある生命に一身を捧げるときのみ、真に倫理的である。
- エ 社会は、様々な機能やシステムが相互に結び付いて結合される有機体であると考え、有機体としての社会は、適者生存の原理により、生物と同様に進化する。
- オ 人間の本来的な在り方は、単に存在するだけの事物とは異なり、個々の状況で自ら決断することによって、自己を自由に選びとっていくことにある。

- 問3 Cの著者について述べたa～cの文の正誤の組合せとして正しいものを選びなさい。 No.9

- a キリスト教を批判し、宗教の力に頼らずに本来の自己の生き方を求めた。
- b ものごとの真偽や善悪の基準を人間の理性に求め、合理主義を唱えた。
- c 自己の存在の独自性とそれゆえに生ずる苦悩から『死に至る病』を著した。

	a	b	c
ア	正	正	正
イ	正	誤	正
ウ	正	誤	誤
エ	誤	正	誤
オ	誤	誤	正

- 問4 Dの著者が、下線部①について説いたこととして、最も適当なものを選びなさい。 No.10
- ア 日本のために命を捧げることはモーセによって許される。
- イ キリスト教を信仰することは日本の救済に繋がる。
- ウ キリスト教のもとであるユダヤ教を信仰すべきである。
- エ キリスト教よりも日本を大事に敬う必要がある。
- オ キリスト教の教えは日本人になじみにくいものである。

- 問5 Eの著者に関して述べた次の文の（ a ）～（ c ）に当てはまる語句の組合せとして正しいものを選びなさい。 No.11

Eの著者である（ a ）は、西洋の近代哲学が、主観と客観、精神と物質という対立を前提としているのに対し、東洋では、そうした区別や対立以前の、（ b ）の直接的な経験を問題にしていると考え、これを純粹経験と名付けた。

彼は、意識や実在の根底にあつて、こうした純粹経験を成り立たせている無限の統一力と一体化し、知・情・意一体の人格を実現することが（ c ）であると説いた。

	a	b	c
ア	中江兆民	主客未分	真
イ	中江兆民	内部生命	善
ウ	有島武郎	主客未分	美
エ	西田幾多郎	内部生命	真
オ	西田幾多郎	主客未分	善

- 問6 下線部②を説明した文として、最も適当なものを選びなさい。 No.12
- ア 客観的なものと主観的なもの、合理的なものと非合理的なものを弁証法的に統一する存在のことである。
- イ 虚無と無限、悲慘と偉大という二重性をもった人間の在り方のことである。
- ウ 過度と不足の両極端を避けて、理性に従って中間すなわち「間」を選び、正義を実現するという人間の在り方のことである。
- エ 神のような完全無欠ではないが、宇宙を思考し得る点において、思考し得ない宇宙よりも優れた存在のことである。
- オ 人間存在を他者との関係性で捉え、他者や社会と相依って存在する人間の在り方のことである。